

情報連絡員報告総括表（令和6年12月分）

三重県中小企業団体中央会
連絡員総数 40名
回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況								
		増 加	不 変	減 少	増 加	不 変	減 少	上 昇	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	上 昇	不 変	悪 化	増 加	不 変	減 少	好 転	不 変	悪 化						
製 造 業	食料品	2	2		1	3		2	2			4		1	2	1		3	1	2	2			4			4							
	繊維工業	1	1	1		3		2	1			3			2	1		2	1		2	1	1	2			2	1						
	木材・木製品			1		1				1			1			1		1				1		1				1						
	紙・紙加工品		1	1	2			2				2			1	1		1	1		1	1		2			2							
	印刷		1			1			1			1			1			1			1			1			1							
	化学・ゴム																																	
	窯業・土石製品		2	1		3		1	2			3			3			3			3			3			3							
	鉄鋼・金属	1				1			1			1		1				1			1			1			1							
	一般機器	1	1	1	1	2		2		1		3			1	2		1	2		2	1	1	2			2	1						
	電気機器			1		1			1			1				1			1			1		1				1						
	輸送機器			1			1	1				1			1			1			1				1			1						
	その他																																	
小計		5	8	7	4	15	1	10	8	2		19	1	2	11	7		14	6	2	13	5	2	17	1		15	5						
非 製 造 業	卸売業		2			2		1	1			2			1	1		2		X				2			2							
	小売業	1	5			6		4	2			4	2		4	2		4	2								6			4	2			
	商店街			1		1		1				1				1			1									1			1			
	サービス業	2	1	1	X			3	1			4		1	2	1		3	1								4			3	1			
	建設業	1	3					3	1			4			3	1	1	2	1				1	3						4		1	2	1
	運輸業		1					1			1				1			1						1						1			1	
	その他	1	1					1	1		1	1			2		1	1						2						2			2	
小計		5	13	2				11	9		17	3		3	11	6	1	15	4				19	1		1	14	5						
合計		10	21	9				4	24	1	21	17	2		36	4	5	22	13	1	29	10	2	13	5	2	36	2	1	29	10			

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和5年12月～令和6年12月)

三重県中小企業団体中央会

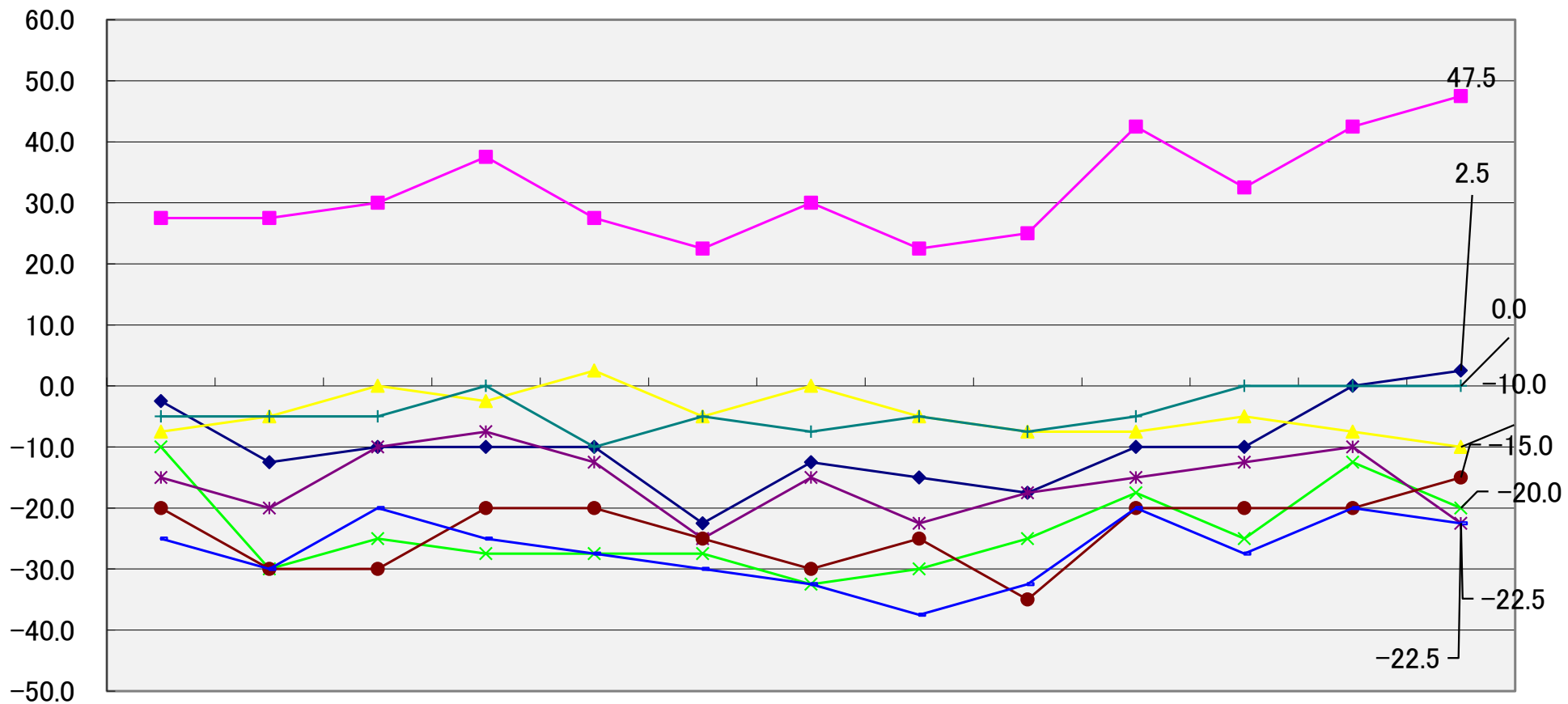
連絡員総数 40名

	5/12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	増減
売上高	-2.5	-12.5	-10.0	-10.0	-10.0	-22.5	-12.5	-15.0	-17.5	-10.0	-10.0	0.0	2.5	2.5
販売価格	27.5	27.5	30.0	37.5	27.5	22.5	30.0	22.5	25.0	42.5	32.5	42.5	47.5	5.0
取引条件	-7.5	-5.0	0.0	-2.5	2.5	-5.0	0.0	-5.0	-7.5	-7.5	-5.0	-7.5	-10.0	-2.5
収益状況	-10.0	-30.0	-25.0	-27.5	-27.5	-27.5	-32.5	-30.0	-25.0	-17.5	-25.0	-12.5	-20.0	-7.5
資金繰り	-15.0	-20.0	-10.0	-7.5	-12.5	-25.0	-15.0	-22.5	-17.5	-15.0	-12.5	-10.0	-22.5	-12.5
設備操業度	-20.0	-30.0	-30.0	-20.0	-20.0	-25.0	-30.0	-25.0	-35.0	-20.0	-20.0	-20.0	-15.0	5.0
雇用人員	-5.0	-5.0	-5.0	0.0	-10.0	-5.0	-7.5	-5.0	-7.5	-5.0	0.0	0.0	0.0	0.0
業界景況	-25.0	-30.0	-20.0	-25.0	-27.5	-30.0	-32.5	-37.5	-32.5	-20.0	-27.5	-20.0	-22.5	-2.5

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移

5/12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月



◆ 売上高
 ■ 販売価格
 ▲ 取引条件
 ✕ 収益状況
 ✱ 資金繰り
 ● 設備操業度
 + 雇用人員
 — 業界景況

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	漬物	生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足が続いており、また、ウクライナ戦争の影響及び円安による諸資材の高騰により、特に電気代の値上がり経営を圧迫する状態が続いている。今年度からJA多気郡が、伊勢たくあん製造のための原料栽培が始め、御園大根の天日干しを行い、伊勢たくあんの漬け込みを行った。今後伊勢たくあんの振興に向けて取り組みを進める。
	醤油味噌	組合員の生産においては、企業により繁閑に差があるが、出荷は年末の需要期ということもあり、全体的に伸びている。国内市場向け、海外輸出向けともに増加傾向である。また、将来を見据えて、新製品導入のための設備投資もあり、機械メーカーとの商談も活発である。原料関係では、米国大豆は豊作で変わらず、また南米大豆も豊作見込みの環境で推移していることから、南米への購入シフトを想定してシカゴ相場は下落傾向である。国産大豆は暖かい気温が続いたことで虫の発生も多く、葉を食い散らし、生育に影響を与えている。
	他に分類されない食料品 製造業	令和6年度は設備投資、賃上げもあり、資金繰りを考えなければならなかったが、満足感もある。令和7年度はDX化を考えて、給料手渡しから銀行振込にしようと考えている。今更と言われそうだが、これが零細企業である。地域に密着してこれまで続いてきた企業も経営者の高齢化で廃業に至る可能性もあると聞くと、他人事ではない。
	製麺	コロナ禍も収まりインフルが流行ってきたが、伊勢うどんの売れ行きも少しずつ広まってきているように感じている。関西圏では伊勢うどんがまだまだ広まっていないが、令和7年は大阪万博があり、これを機会に組合あげて取り組んでいきたいと思う。
木材・木製品	木材	原木高の製品安の傾向の中、製材工場は依然として厳しい経営環境が続いている。
紙・紙加工品	木材チップ	原材料価格が高止まりしているため原料確保が課題である。また、従業員の確保が困難である。
	古紙	12月の仕入れ量は、段ボール・約93±4%位、新聞、チラシ・約90±4%位、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約87±4%位である。長い秋からやっと冬らしくなりポナスも食費・燃料費に変わり冬物商品の消費が伸びずにいるようだ。お歳暮も伸びず通販は包装の軽量化・最小化・フィルム化が進んでおり原紙の重量ベースの伸びは無く減少傾向にある。段ボール古紙の輸出価格は、ほぼ国内価格古紙の販売価格以上となり新聞古紙の国内・輸出共に商品不足で価格は高騰し・雑誌古紙は輸出古紙価格のみ高騰しているようである。円安でも国内中心経営の古紙回収卸売会社には商品を輸出できるほど集められずに収益は無い。年末年始の大きな事故や火事・地震・津波被害は無く感謝しているがゴミ等の置き去りや古紙、古着の持ち去りの行為は無くならず、会社経営の大きな経済的負担となっている。管理会社契約のスーパーや大手小売会社・チェーン店の段ボール古紙取引契約が同業他社に移る事になった組合員は前年比で大きくマイナスとなっている。古紙や古着の取引価格が品薄で上昇気味は有難いが、古紙の持ち去りやゴミ等の置き去り行為回数が上昇気味の感があり、サステナブルなより良い社会づくりの為に御指導・御鞭撻・御尽力を関係各所・適材適所へ切にお願いする所である。
印刷	印刷	昨年より年賀状廃止が見られるようになったが、個人では高齢であること、若い層においては年々減少していたが、今年は特に事業所においても廃止するところが相当数みられる。ハガキ代の値上げもひとつの要因として、結果、年賀状終いに繋がったものと考え（日本郵便によると、年賀ハガキ販売数昨年比▼25%）。
窯業・土石製品	伊賀焼	業況は、組合員皆忙しくしている様子がうかがえる。だが、更なる燃料費、原材料費の値上げが見込まれるために価格の改訂に頭を悩ませている。
鉄鋼・金属	鍍金	業界の生産額は、増加傾向が続いている。中心は自動車関係であり、従来の燃料系のほか、EV関連の受注も増加しており、好調な状況が続いている。

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
一般機器	四日市市	組合員の最近の状況は、全体的には冷え込んでいる状況が相変わらず続いている。引き合いの状況はあまり変わっていない。設備投資を前向きに検討している企業が少ないように思われる。特に中小企業の設備投資欲は高くなく、また新規案件に関わる設備導入の気配はあまりない。既設設備の老朽化からの更新検討はしているがなかなか受注までにはつながらない。機械加工部品についても発注量が多いとは言えない。また、価格の低迷も続いていると感じる。
	津市	売上は上がっているが材料単価の上昇に伴う値上ががあったため、収益で見ると悪化している。EV関連がなかなか伸びず、注文も少ない状況が続いている。売上増のニュースはあるが、収益についてはあまり報道されていない。中小企業の大半の収益は悪化しているのではないかと思う。
	伊勢市	状況にあまり変化は無く、相変わらずの低調が続いている。販売価格は上がっているが、原価が上がり、受注が減り、収益状況は悪くなっている。特に、自動車関連は引き続き悪く、工作機械関連も同じである。来年こそは良くなることを期待している。
	鳥羽市	受発注共に低迷が続き、年末を迎えても例年通りの動きがない。厳しい状況が続いている。
電気機器	鳥羽市	受発注共に低迷が続き、年末を迎えても例年通りの動きがない。厳しい状況が続いている。
輸送機器	伊勢市	自動車関連の物量は悪化、一般向けは微増である。全体的には大きな変化なく、好転の兆しもまだない。
小売業	青果	野菜前半：全体的に入荷が少なく取引も大きな動きは無いが、年末に向けて価格が上がった品目もある。白菜、大根、しめじ、えのき、生椎茸等は入荷が安定している。高値が続いたトマトの入荷が増え安定価格になった。キャベツは長く続いた猛暑の影響で価格を上げた。 野菜後半：年末にかけて例年に比べ品薄感があり、価格が上がった品物が多い。特にキャベツ、白菜、レタス、ブロッコリー、きゅうり等が高値が続いた。お正月用もち菜、レンコンは順調に入荷でき安定価格であった。 果物前半：みかんは、県内産が中心で、和歌山県、愛知県、静岡県産の各産地とも昨年に比べて作柄が悪く、高値で推移している。りんごは、長野県産、青森県産ともに高値が続いた。柿は、県内産次郎柿のピークが過ぎ、岐阜県産の富有柿の入荷が増えてきた。夏の暑さの影響で入荷が少なめであるものの価格は昨年並みであったが、年末は高値になった。 果物後半：みかんは、温州みかんが県内産、和歌山県産、愛知県産、静岡県産とも終盤になって高値が続いた。また、晩生種の「青島」の入荷が増えてきた。大玉で糖度もあり、味も良い。りんごは、青森県産が2月頃まで安定入荷を望めそうである。県内産いちごは、作況が良くなく入荷も少なく、また、クリスマス、年末の需要が高騰した。岐阜県産富有柿は順調に入荷してきた。
	自転車	個人消費は緩やかな景気回復傾向とするものの、米次期政権に警戒感が増し、先行き予想が見えにくい状況である。そのうえ、中国や欧州の景気回復の鈍さも重なり今後のビジネスへの影響が心配される。このような状況下、組合員の中には廃業を考える店舗も出てきた。12月21日付けで、またしてもメーカーは価格改定を打ち出してきた。シマノ製パーツ11~29%、メンテナンスパーツ50%までのアップとなり、ブリヂストンサイクル(株)のホームページ上ではお客様に対してお知らせを開始した。新入学商品の入荷も整い、一部予約も入ってきている。
	電器	年末商戦の時期に入り、各商品にも動きが出てきたように思う。例年に比べて暖冬ではあるが、暖房機器にも動きが出ている。エアコンやファンストープも爆発的ではないが動きが出てきている。映像関連も動きはあるが、低価格を好まれる場合と画質や音質をこだわる場合に分かれているのが特徴であった。
	石油	燃料油価格激変緩和措置の国費補助が減額され、12月19日以降分の石油製品仕切価格はENEOS、出光興産、コスモ石油マーケティングともに実質ベースで、Lあたり4円20銭引き上がった。消費税を入れると約5円あまりの値上げとなる。過去から見ても、実質仕切としては、サウジ調整金の変動などを反映して4円30銭上がった2022年9月1日以来の大幅な値上げとなった。次は年明けの1月16日に燃料油激変緩和措置の2回目の国費補助金が減額される。12月の補助金減額と合わせると約10円の値上げとなる。 自民、公明の与党が決定した2025年度の税制大綱には、国民民主党との3党合意を踏まえガソリン税に上乗せされている暫定税率の廃止を明記した。自動車の車体課税や燃料課税について総合的に検討して見直しを行う趣旨を盛り込んだ。
	スポーツ	この業界に限らず円安の影響で来年のスポーツ用品の値上げラッシュがまだ続く模様である。各組合員の店舗も来年また苦勞する予想である。
非製		

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
造 業	商店街 熊野市	今月の商店街朝市イベントは、熊野の養殖まぐろを広くPRする目的で今回3回目の開催を迎えた「熊野まぐろ祭り」をメインに開かれた。以前はふるまいがメインの同イベントであったが今回は格安販売とお買い物抽選会での賞品という形に切り替えられたが、まぐろ販売には多数の方が買い求められたようだ。来月1月は熊野のさんま丸干し1000本をふるまう10回目を迎えた「熊野さんま祭り」が熊野商工会議所との共催にて開催される予定となっている。今回は中京方面からのバスツアーも企画されており、ツアー参加者にもふるまいを予定しており年々盛況となっている。ただこの地方のさんま漁獲量は年々減少しており、厳しい状況でもある。今後この地方特有の丸干しを売り出すためには九州の明太子のように地域産にこだわらず、加工方法を前面に出してブランド化を進めていく事が必要と感じる。	
	サービス業	旅館	昨年の12月は日帰りの忘年会、宿泊を伴う忘年会も多くあり、コロナ前に戻ったようであったが、今年の12月はこのようなお客様はかなり減った。旅館、ホテル、飲食店(業務用)、スーパー(家庭用)へ食材を提供している食品会社からの情報では、スーパーが非常に好調であったが、他はあまり良くなかったようだ。このことは、家で食事をして外出は控えたようで、消費の落ち込みが、宿泊、飲食に大きく影響しているようであった。対前年比80%、2019年同月比70%のようであった。
		警備	今年の年末のイベント警備及びスーパー等の警備についてはコロナ禍の影響もなくなり、受注増となった。
	建設業	総合工事業	11月末時点の公共工事の県内企業の受注状況は、前年度同月と比べ減少傾向にあり、国と県の契約減少がその要因、市町発注は前年度同月とほぼ同じような状況である。
内装工事業		12月は、対前年同月比で10、11月に続き大幅な増加となった。この流れが年度末まで続くと良いが、前年の1~3月は数値が高いので、そこまで届くのか疑問である。	
電気工事		当組合では、女性部の設立に向けて準備を進めている。現在、経営者、工事士、事務職合わせて約20名の女性賛同者で9月と12月に会合をもち、まずは顔合わせとお互いを知り合う機会とした。なお、貴会企画情報課の八木主査さまにはオブザーバーとして同席いただいた。今後は、2025年度中の発足に向けて、準備を進めて行く。	
水道工事業(亀山市)		漏水委託業務については12月現在で、前年比30%程度減少している。売上についても減少しているが、漏水箇所が少ないことは当番会社の負担が軽減されていると思われる。また、働き方改革の時間外労働の上限規制で、漏水による時間外の出勤が少なく、今は助かっている。今後、亀山市との協議として時間外労働についての意見交換を行う予定である。	

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	ガソリン等の値上げが見込まれ、運送費のアップが予想されている。今後の状況により、価格の対応が厳しくなりそうだ。また、ご指導宜しくお願い申し上げます。
一般機器	四日市市	物価上昇、賃金アップ、人材不足と事業環境は厳しく、業界全体で活況な業種が少ないように感じる。中小企業の今後の経営環境が改善されるよう支援をよろしく願っています。
サービス業	旅館	需要喚起の方法の一つとして愛知県で取り組んでいる事業、愛知県「休み方改革プロジェクト」について調査検討してほしい。かなり効果が出ているようで近隣県が歩調を合わせると更に効果的と言われている。